

平成 29 年度

武蔵野市非核都市宣言平和事業の記録



武蔵野市 非核都市宣言平和事業実行委員会

平和の日メッセージ

昭和19年（1944年）11月24日に、武蔵野が初めて空襲を受けてから、73年が経ちました。

当時武蔵野市には、ゼロ戦などの戦闘機のエンジンを製造していた中島飛行機武蔵製作所という軍需工場がありました。この工場は東洋一と言われるほど大規模で、米軍による本格的な本土攻撃の第一目標となりました。終戦までに工場を狙った空襲は9回を数え、工場関係者200名以上が犠牲となり、周辺地域でも多くの住民が巻き添えとなりました。

武蔵野市では、この空襲で犠牲になられた方々に哀悼の意を表するとともに、戦争の記憶を継承し、平和の尊さを次世代につないでいくために、初空襲のあった11月24日を「武蔵野市平和の日」に制定しました。

今年の8月には、改めて戦争の悲惨さ、平和の尊さを若い世代へ伝えるため、市内の中高生7名を「青少年平和交流派遣団」として長崎市へ派遣しました。事前学習会では被爆体験者の方からの講和、現地では、平和祈念式典への参加や原爆遺構の見学などを通して、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを直接肌で感じたことと思います。

戦争を体験された方から直接体験談を聞く機会も大変貴重になっています。戦後70年余を経た今、私たちには、この「体験の記憶」を語り継いでいく使命があります。記憶を風化させず、未来へつないでいくため、今後も若い世代に武蔵野の空襲の歴史や戦争体験を継承しながら、平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝えていく活動を市民の皆様とともに取り組んでまいります。

そして、原爆投下による広島、長崎の悲劇が二度と世界で起こることのないよう、武蔵野市は、国内外の自治体と連携しながら、戦争も核もない世界の実現に向けて、お互いが尊重し合う平和な社会を育む取り組みを推進してまいります。

2017年11月24日

武蔵野市長 松下玲子

ま え が き

武蔵野市議会では、昭和57年3月29日に非核都市宣言を行いました。

平成19年には、その宣言から25年を記念して、地域・平和団体、大学生、公募市民などで構成する非核都市宣言平和事業実行委員会が設置され、それ以降、戦争パネル展や映画上映会、講演会、子ども向けイベントの企画・運営など様々な平和啓発事業を実施してまいりました。また、平成23年には、中島飛行機武蔵製作所が初めて空襲を受けた11月24日を「武蔵野市平和の日」とする条例が制定されました。

平成29年度は、市制施行70周年記念事業として、伊藤真氏による『くらしと憲法～今こそ「憲法之力」をつけよう！』をテーマとした講演や、青少年平和交流派遣事業、平和の日イベントでは武蔵野の空襲に関する講演やむさしのジュニア合唱団風による合唱を行うなど、さまざまな平和関連イベントを通して、次世代へ戦争の実相と平和の大切さを継承していく活動を行いました。今後も市民に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えるため、戦争体験の伝承を継続し、平和への意識を高めていく事業を引き続き行っていきます。

本書は、平成29年度に行われた非核都市宣言平和事業の記録集です。

目 次

I 平成29年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業の実施状況

- 1 憲法月間記念行事の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 夏季平和事業『戦争も核もない世界を武蔵野から』・・・・・・・・ 1
- 3 平和の日イベント『戦争も核もない世界を武蔵野から』・・・・ 2
- 4 研修会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 5 実行委員会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

II 平成29年度武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会に

- 参加した実行委員からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

平成 29 年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会 委員名簿

選出分野	氏名	団体名
市民団体・大学生	深 田 榮 一	武蔵野市コミュニティ研究連絡会
	吉 田 則 夫	武蔵野市立小中学校PTA連絡協議会
	植 村 進	武蔵野市老人クラブ連合会
	小 島 晴 輝	大学生
平和関連団体	牛 田 守 彦	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
	中 里 崇 亮	世界連邦運動協会武蔵野支部
	柴 田 フ ミ ノ	武蔵野けやき会（被爆者の会）
	田 村 恭 子	武蔵野市国際交流協会
公募委員	小 餅 友 子	市内在住
	北 山 征 一	市内在住
	高 木 政 宏	市内在住
	中 島 敏	市内在住
	島 津 好 江	市内在住

I 平成 29 年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業の実施状況

1 憲法月間記念行事の開催

(1) 作品募集

内容：書道・絵手紙

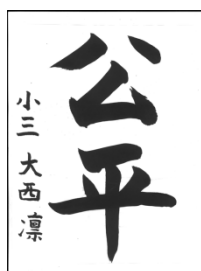
応募状況：書道 123 点 うち優秀賞 2 点、入選 16 点

絵手紙 31 点 うち優秀賞 2 点、入選 3 点、実行委員会賞 1 点

表彰：5 月 20 日（土）の記念講演会において、優秀賞受賞者を表彰

展示：応募全作品を 5 月 1 日（月）～15 日（月）まで市役所ロビーで展示

入賞作品については講演会当日（5 月 20 日）に、スイングホールにて展示



(書道・絵手紙 優秀賞作品 4 点)

(2) 講演会の開催

日時：5 月 20 日（土） 午後 2 時 30 分～4 時 30 分

場所：武蔵野スイングホール

内容：講演『くらしと憲法～今こそ「憲法の力」をつけよう！』

伊藤 真 氏

参加者：106 名（他関係者 17 名）



(3) 横断幕の掲出

「憲法月間 憲法を学びみんなで作ろう平和な暮らし」

5 月 1 日（月）～31 日（水）市役所

2 夏季平和事業 『戦争も核もない世界を武蔵野から』

(1) 写真パネル展の開催（協力：武蔵野けやき会、武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会）

内容：広島・長崎の原爆、武蔵野の空襲と中島飛行機

① 武蔵野プレイス 1F ギャラリー 8 月 4 日（金）～14 日（月）

② 市役所ロビー 8 月 15 日（火）～22 日（火）

※会場内で平和啓発映像「戦争体験を語り継ぐ～被爆体験者、シベリア抑留者の声～」上映

(2) 映画上映

8月3日(木) 午後2時～4時20分 武蔵野プレイス4F フォーラム

映画「母と暮せば」

参加者：100名

(3) 子ども向け平和イベント

8月4日(金) 午後1時30分～2時15分 武蔵野プレイス1F ギャラリー

小学生による絵本の読み聞かせ 「かわいそうなぞう」

アニメ映画「つるにのって」

参加者：30名



(4) 市民から寄せられた戦争関連資料展示

8月1日(火)～25日(金) 市役所1F ショーウィンドー

3 平和の日イベント 『戦争も核もない世界を武蔵野から』

(1) 写真パネル展の開催

内容：武蔵野の空襲と中島飛行機 (協力：武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会)

① 11月9日(木)～11日(土) アトレ吉祥寺地下1階 ゆらぎの広場

② 11月13日(月)～17日(金) 市役所ロビー

③ 11月20日(月)～24日(金) 武蔵野プレイス ギャラリー



(2) 共催事業 映像上映およびトークショー

日時：11月11日（土） 午後3時～5時 アトレ吉祥寺地下1階 ゆらぎの広場

内容：中島飛行機と黒島をつなぐ

映像「黒島を忘れないSP」

「NHK鹿児島ニュース映像」

トークショー 小林 ちえみ 氏

城戸 久枝 氏

牛田 守彦 氏



(3) 横断幕の掲出

「平和への願いを込めて 11月24日は武蔵野市平和の日です。」

11月1日（水）～30日（木） 市役所、市内3駅前

(4) 市内各コミセンなどにおけるミニミニ空襲パネル展

市内各コミセンなどで開催

(5) 図書館での中島飛行機や戦争、平和に関する図書の設置

① 中央図書館 11月13日（月）～26日（日）

② 武蔵野プレイス 11月20日（月）～24日（金）

(6) 市民から寄せられた戦争関連資料展示

11月1日（水）～30日（木） 市役所1F ショーウインドー

(7) 平和の集い

日時：11月23日（木・祝） 市立公園はらっぱむさしの

雨天中止

(8) 平和の日イベント

11月23日(木・祝) 午後1時～3時40分 武蔵野スイングホール

- ・青少年平和交流派遣団報告会
- ・講演『武蔵野の空襲を探る——遠くて近い「戦争」』(牛田守彦氏)
- ・解説「戦争の歴史を未来へ伝える～中島飛行機武蔵製作所に関する武蔵野ふるさと歴史館の取り組み～」(ふるさと歴史館 合田宇宏主任)
- ・むさしのジュニア合唱団 風 合唱

参加者：176名



4 研修会の開催

- (1) 実施日 平成30年1月25日(木)
- (2) 視察先 明治大学平和教育登戸研究所資料館
- (3) 参加者 実行委員7名、随員職員2名

5 実行委員会の開催状況

	日 時	主 な 内 容
第1回	平成29年4月19日(水)	実行委員会の運営等
第2回	5月9日(火)	憲法月間記念行事、夏季平和事業について
第3回	6月13日(火)	夏季平和事業について
第4回	7月6日(木)	夏季平和事業について
第5回	9月14日(木)	平和の日イベントについて
第6回	10月31日(火)	平和の日イベントについて
第7回	12月25日(月)	憲法月間記念行事について
第8回	平成30年3月27日(火)	憲法月間記念行事について

II 平成 29 年度武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会に 参加した実行委員からのメッセージ

武蔵野市コミュニティ研究連絡会 深田 榮一

昨年初めて実行委員会の委員になりましたが、ほとんど委員らしい活動が出来ずに一年間が過ぎてしまったことを、心から反省しています。他の委員皆さんの平和に対する思いや活動を通して、あらためてユネスコ憲章に謳われている「人の心の中に平和のとりで」を築くことの大切さを学びました。

「戦争ほど残酷で悲惨なものはない。戦争は絶対悪である」ことを、各国の指導者にはもちろん、戦争を知らない世代の心に訴えていく、地道な活動を継続していかなければならないと強く思いました。一年間ありがとうございました。

武蔵野市立小中学校 P T A 連絡協議会 吉田 則夫

非核都市宣言平和事業実行委員になり、戦時中に武蔵野市で何があったのか、初めて知ることがたくさんありました。

1944 年 11 月 24 日に中島飛行機武蔵製作所にはじめての空襲があったことや、全 9 回の空襲で武蔵野市で 220 人の方が亡くなられたこと。1945 年 7 月 29 日には、柳沢に原爆の模擬爆弾が投下されていたこと。

戦争は遠いもののように感じていましたが、この武蔵野にも戦争を経験された方がいて、生の声を聞いて、実はそんなに遠いものではないことも感じられました。

平和の大切さを子どもたちに伝えていくためにも、この街で何があったのかを知り、語り継ぐことができるように、これからも学んでいきたいと思います。

武蔵野市老人クラブ連合会 植村 進

初めは、戦争の話に自分自身の現実味がなく思っていました。会に参加して、特に中島飛行機の空襲の話などを聞き平和の大切さを実感しました。それに私自身中島飛行機跡地に現在、平和に暮らしている、意義を感じました。

5 月 20 日に開催された、「市制施行 70 周年事業憲法月間記念事業」の中で伊藤 真氏の講演（くらしと憲法～今こそ「憲法の力」をつけよう！）は聞きやすく解りやすい講演でした。

また、8 月 3 日に武蔵野プレイスで開催された映画「母と暮せば」は、戦争によって息子を亡くす悲しさがよく表現されて、なおかつ母子愛情がよく伝わって感動しました。

大学生 小島 晴輝

この度のボランティアを通していかに今の日本が平和で過ごしやすい国であるかということを感じました。戦争を実際に経験した方々のお話をお聞きすると胸が痛くなり、また、そういった方々が戦争をしてはいけないという強いお気持ちがあるからこそ今の日本があるのだと思いました。これから先こういった経験を直接お聞きできることが減っていくので、私がお聞きしたことを未来へ伝えていかないといけないと思っています。最後のほうは忙しくて参加できませんでしたが貴重な機会をいただきありがとうございました。

武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会 牛田 守彦

2017年度の委員会を振り返ると、たいへん印象深い1年だったと思います。5月、憲法改正が取り沙汰されている中で開催された伊藤真さんの講演、8月、会場がいっぱいになった映画『母と暮らせば』の上映など、記憶に鮮やかです。11月は平和の日イベントの記念講演は、恥ずかしながら自ら行いましたが、幸いに好評でした。しかしできることならば、若い世代への働きかけをもっと工夫すべきではないかと思いました。3月の委員会で、大型パネルを駅や公共機関などに設置するアイデアを出しました。ぜひ今後も検討したいと思います。1年間、ありがとうございました。

世界連邦運動協会武蔵野支部 中里 崇亮

平成29年度は終戦から72年、武蔵野空襲から73年を迎えた年でありました。いつもメモを片手に戦地で激戦により戦友を失った話をしていただいていた高田さんが亡くなりました。出征兵士としての戦争体験者は90歳を超え私の周りには二三人となってしまいました。私も81歳、空襲、戦災の体験の記憶はありますが、80歳以下の人たちは年少のため記憶が少ないようです。

戦争の話をする機会も少なくなりましたが、断片的な体験者は多くいます。この人たちの記憶を集めることも大切だと思います。また、亡くなった人たちの、自叙伝の中に戦争体験の記録もあります。更に、戦前、戦後の体験談など集めたいと思いました。

戦争体験の遺物の収集保管も大切です。戦争遺産、遺跡などを市指定遺産として保全していくことが考えられます。武蔵野市の平和事業取り組みが広がっていくよう願っています。

実行委員の方々の熱心な取り組みにより、平和事業の内容も武蔵野の特徴を活かし充実したものになりました。戦争の悲惨さと平和の尊さを武蔵野から発信できますよう頑張ります。

武蔵野市国際交流協会 田村 恭子

29年度に初めて、当委員会に仲間入りをさせていただきました。武蔵野市を拠点とする平和事業に長い年月取り組んで来られた先輩メンバーが積み重ねて来られたご経験と熱意に触れ、大変心を打たれました。また同時に自分の不勉強さを痛感いたしました。

メンバーの中には実際の戦争体験をお持ちの方、被爆体験をお持ちの方がいらっしゃいます。委員会の開催時には、痛ましい時代を繰り返さないように、とそれらのご経験を直々に語って頂く時間もあり、私にとってはこの上ない学びの時間でした。

委員の方々の傍で、直接お聴きした「生の声」を決して忘れることなく、私も微力ながら後世に平和の尊さを伝えていかなければと身が引き締まる思いです。

公募委員 小餅 友子

私は、まだ戦禍を感じられる時代背景の中で育ってきた戦後生まれですが……。

戦前・戦中を体験してきて、平和への信念をお持ちの方々の「最近の社会の動きが『戦前』に似てきている」という言葉には、体験がないだけに不安を感じています。せっかく 70 年間平和を守り、無駄なお金も命も捨てずに過ごしてきた唯一の被爆国「日本」が、世界のお手本とならず追随するようなことになってしまわないように願うばかりです。この事業には、次世代に平和の大切さを伝え、平和を考えてもらうきっかけを作りたいと思って参加してきました。武蔵野市から平和のメッセージを送れるのは、力不足を感じながらも、素晴らしいことだと実感しています。

公募委員 北山 征一

この会が出来て約 10 年、元都議会議員の井口秀男さんが初代実行委員長に就任されたと思いますが、三代目に高石さんが一度実行委員長になられたと思います。その後は中里崇亮元市議会議員（延命寺住職）と井口さんが、交互に委員長に就任されていましたが、井口さんが亡くなってからは武蔵野で戦争体験をされた中里さんが最適任であると思います。

他にも実行委員の中にも体験者がいて、委員会の時間外にも貴重なお話しが聞けて、若い人へと伝えているこの会に、核兵器廃絶を願うボランティアに参加している私は公募で選ばれて運営に携われるのは、多くの市民の方に平和事業を武蔵野から発信できるよう 邑上元市長から松下新市長と共に進める一翼を担いたいものです。来年度も抽選にあたりましたので、よろしくお願ひします。

公募委員 高木 政宏

数年関わらせて頂いておりますが、武蔵野市中島飛行機武蔵製作所があったことによる戦争での歴史について、年を重ねるごとにいろいろ知ることとなり、私が知らなかったように今も知る機会のない人たちにどうやって広めていくかということの役割をこの実行委員会の皆さんが熱意をもって活動されていることに微力ながら協力したいと思ひながら参加させて頂いております。

研修などでは、過去の戦争でのかかわりのあった場所、戦争で日本が行ったことなどを知ることによって、改めて考えさせられてしまいます。また、憲法についても考えさせてくれる機会が多く、今の日本の政治について興味をより持つようになっていく自分に気づきます。

興味があることに気付いていない方もいると思うので、この会の活動により、気付いて頂ける手助けになればと願っています。

公募委員 中島 敏

武蔵野市非核都市宣言平和事業の実行委員の1人として活動に参加させて頂いています。

広島、長崎に原爆が投下され、また、武蔵野でも中島飛行機の工場への空襲によって多くの方々が亡くなってから70余年が経ちました。

日本は、戦争によって国際紛争を解決しようと図ったことが、限らない惨禍をもたらす結果に至ったことへの痛切な反省から、日本国憲法を制定しました。

市は『平和の日』を設け、核兵器の使用や戦争の惨禍が再びもたらされないように、若い生徒たちを長崎へ派遣し、また委員会とともに武蔵野空襲の実態を市民が共有するための活動を続けています。

憲法については、国民投票等の制度によって市民一人ひとりが意思を表明する機会も近いかも知れません。5月の『憲法月間』に、2016年に木村草太教授、2017年に伊藤真弁護士を招いた専門的立場からの講演は大変勉強になりました。

年に1回の研修も委員会の特徴です。2016年には靖国神社、2017年には旧陸軍登戸研究所（現明治大学平和教育登戸研究所資料館）へ行きました。登戸研究所では戦争中、中国経済を混乱させる目的で偽札を大量に印刷し、船で中国大陆へ運んでいたそうです。

市がこのような委員会を定め、委員会が市と共同して非核、平和のための活動を進めることはとても重要なことと考えています。

公募委員 島津 好江

中島の空襲体験を少しでも伝えたい思いで応募しました。一年間もメンバーの人達と話しあい、会自体がどのように活動していったら良いのか考え、今回も戦時中、中島飛行機武蔵製作所が武蔵野市に有ったこと、米機に九回も爆撃にあい多くの犠牲者が出て戦った事実をお知らせしたい思いでした。平和事業のイベント、パネル展で突然中学生から、平和とは何かと問われて、おどろきました。七十二年間も当たり前平和に過ごしてきました。具体的にどのように答えるべきか、とまどい、平和の反対は何であるか静かに考えました。平和も次世代につづけていかななくては、と祈りました。人の知恵と力で守らなければなりません。平和こそ心豊かに自由に希望をかかえて。

武蔵野市非核都市宣言

戦争の惨禍を防止し、恒久平和を実現することは、全人類が切実に念願するところである。

核兵器保有国間で核軍拡競争が激化している今日、とりわけ核戦争を回避し、原水爆の恐れのない世界を確立することは、緊急かつ重大な課題である。

武蔵野市は、平和を希求する世界連邦に関する宣言都市として、人間が人間を滅ぼす危険を防ぎ、人類永遠の平和を樹立するため、非核三原則の完全実施を願い、最大限の努力を傾注するものである。

ここに、われわれは、平和のために貢献する決意を表明するとともに、武蔵野市が非核都市となることを宣言する。

昭和57年3月29日

武蔵野市議会

世界連邦に関する宣言

武蔵野市は、世界の恒久平和と人類永遠の繁栄を保障する世界連邦の建設に同意し、武力国家の対立を解消して、英知と友愛に基づく世界の新しい秩序の実現を希求する。

人類最初の原爆被災国として、また戦争放棄を憲法に明記した国として提唱し得る最適の立場にあることを確信し、この宣言を行ない、他の宣言都市と相携えて、世論を喚起し、これを国政に反映せしめ、速やかに国家宣言を行うとともに、進んで現行の国連憲章の改正により世界連邦の実現を期するものである。右宣言する。

昭和35年6月28日

武蔵野市議会



平成29年度

武蔵野市非核都市宣言平和事業の記録

発行 平成30年 7月

武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会

武蔵野市市民部市民活動推進課内

武蔵野市緑町2丁目2番28号

電話(0422)60-1829 (直通)